

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人たんぽぽ会 こども生活館おひさま			
○保護者評価実施期間	令和7年9月28日		～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34人	(回答者数)	34人
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日		～	令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に就労継続支援B型事業所やグループホームなど成人期の施設があり、将来の暮らしへの見通しが持ちやすい環境がある。	働くことへの見通しを持ち、楽しさややりがいを感じてもらいながら、社会のルールやマナーの獲得や自らの力で余暇を充実させることができるよう、日々の活動の中で「職場体験プログラム」の実施・「好きなこと」を見つけたり、深めたりする取り組み・実際に中学生以上の利用者を対象に法人内の事業所での職場体験を行っています。職場体験で、実際に「はたらく」ことを経験し、一段と将来への意識や責任を持つ経験ができ、発言にも大きな変化がみられています。 保護者様の要望などから、法人内の事業所見学やグループホーム見学も随時行っています。	引き続き、随時保護者様の要望に応じた見学を行ってまいります。また、地域の状況を把握しながら様々な就労形態や地域資源の情報収集に努めてまいります。職員は、お子様の「しなやかに挑戦できる心」を大切にはぐくめる支援に努めてまいります。
2	将来に向けて、社会の仕組みを学習したり、他者との関わりを体験する取り組みを地域を巻き込んで実施している。 「オヒサマルシェ」のこども店長・店員への憧れをこどもたちもご家族も抱いている。	「オヒサマルシェ」という行事を開催し、店長や店員を経験することで、他者との関わりや社会の仕組みを学び、将来の生活へ繋げる実践的な取り組みを実施しています。具体的な実践を通して楽しみながら社会の仕組みを経験できるようにしています。併せて事前に『キラキラ』という活動を開催し、相手とのやり取りの中で大切な身だしなみを意識する活動を取り入れています。注意点を把握したり、直接お客様からの反応を頂くことで、こどもたち自身の大きな自信につながっています。公共施設の見学なども多く取り入れ普段から広い視野で社会へ意識を向けられるように取り組んでいます。 ・こども自身が担当する店舗商品の販売や設営スキルの段階から運営やマルシェ開催の企画にも携わってもらう事を数年かけて段階的に実施していることで、こども間でもあこがれをもちながらいろいろな挑戦がみられるようになっていきます。また、こども店長に参加できないこどもやご家族からもあこがれの意思表示がはじめています。	「オヒサマルシェ」開催に向けこども間であこがれをもちながらいろいろなアイデアを出し合い、販売促進などアピール方法(宣伝)などにも意識を向ける取り組みを今後も行っていきます。
3	ダイナミックな活動や多様な価値観に触れるきっかけを多く作っている。	活動のバリエーションが広がりやすく、ボウリングや体育館での活動など、ダイナミックな活動を展開しています。また、サークルタイムを通して、多様な価値観に触れるきっかけもついています。	児童期から多様な価値観に触れられる機会を提供し、変化の激しい時代にも、多様な価値観を認め合うことができるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こども生活館おひさま
------	------------

公表日 令和8年2月20日

利用児童数 34名

回収数 34名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	4		1		設置基準に沿って確保しております。状況に応じて部屋を分け少人数の活動を行い、公園やふれあい館等、公共施設も活用させていただきながら活動を行っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	29	2		3		事業所としての配置基準を満たし、児童発達支援管理責任者、保育士、児童発達指導員を配置しています。定期的に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士との連携も図っております。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	30	1		3		今年度は日よけテントを設置し、芝生のある戸外でも快適に過ごせるよう環境を整えました。今後も状況に合わせて必要な設備の改善を行っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	1				常に清掃や消毒、換気に留意しています。ワンフロアで部屋を使用することもでき、換気もよく、大きく身体を動かせる空間作りを行っています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	1				保護者様、関係機関の皆様との連携を密に取り、将来を見据えた必要な支援を行っています。こどもたちの成長や活動のねらいにあわせ個別や小グループの活動を行っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34					法人理念、事業所理念を基にガイドラインに沿って支援プログラムを立て、実施することで、支援の内容がよりわかりやすく共有できているよう工夫しています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34					児童発達支援管理者を中心にご本人や保護者様、関係者様からのお話を伺い、伸ばしたい力や困りごとについて共通理解を図っております。そのうえで、アセスメント、カンファレンスを行い、計画を作成しています。アセスメントはより客観的な分析ができるよう標準化されたアセスメントツールも使用しています。また、日々の行動の気付きを職員間で共有するインフォーマルなアセスメントと組み合わせて行動を捉えるようにしています。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34					ご家族や関係機関の皆様と支援内容が共有しやすいよう目標に対して、活動がどのように結びついているかわかりやすく記載するよう心掛けています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33	1				個々の放課後等デイサービス計画を基に、日々の支援・活動を立案・実施しております。経験から「好き」を増やし、自信へ繋げる支援を行っています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	1				安心して過ごす中で、新しいことへの期待を感じられるようプログラムは緩やかに設定し、タイミングを丁寧に図りながら変化を加えています。また、高学年、中高生の皆様には将来に向けて社会の仕組みを経験できるようオヒサマルシェや職業体験も実施しております。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	24	3	1	6		オヒサマルシェ、おひさま美術館、避難訓練、交通安全教室では、地域の方にもご参加頂き交流する機会となっています。オヒサマルシェでは、こども自身が地域の方へ働きかける積極的な姿もうかがえました。

保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	32			2	支援内容については随時および定期的に連絡帳や家族会やお便り、SNSなどでお伝えさせて頂いております。利用者負担等については、契約時、変更時に説明させて頂いております。今後も丁寧な説明を心掛けていきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32	2			保護者様にお時間を頂き、放課後等デイサービス計画と一緒に確認頂きながら説明、同意を頂いております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	33			1	年に1クール(全6回)のペアレントプログラムを実施しています。 講師として対応する職員は講師としてのフォローアップ研修に参加し技術の向上に努めています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	34				個別面談や連絡帳、お電話等活用させて頂きながら、お子様の状況について情報交換を行っています。おひさまカフェや家族会もお子様の成長を共有するよい機会となっています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	32	1		1	連絡帳やお電話等他、定期的に面談を行い、困りごとや悩みに対して随時相談をお受けしています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	3		1	保護者様が職員に話しやすい雰囲気を作ることや、安心して相談できるよう今後も取り組んで参ります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	29	4	1		父母の会結成までは至っていませんが、今年度も『おひさまカフェ』『オヒサマルシェ』『おひさまゲームセンター』などを開催することができ、保護者様同士が、日頃感じていることなどを職員も交えて語り合う場を作っています。どの行事も、ごきょうだいの皆様も楽しむことができるよう工夫しております。皆様に喜んで頂き次年度への励みにもなっています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	34				相談窓口担当者・解決責任者や第三者委員を設置するなど体制を整えており、お知らせをしておりますが、どの職員にも相談しやすいよう心掛けております。相談に迅速に対応し、随時、申し入れに対して対応しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34				送迎の際やお電話、連絡帳、面談などを通し共通理解に努めて参ります。状況により柔軟に対応できるようにしております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	34				お便りを発行し、活動概要、行事予定、前月の活動の様子を、毎月お知らせしております。活動の様子、行事予定のお知らせはSNSも活用して発信しています。また自己評価票の結果はホームページに記載しております。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34				個人情報に記載された書類は鍵付きの場所に保管しています。おたよりやSNS掲載は同意を受けた範囲内で行っております。今後も個人情報の取り扱いに十分注意して参ります。	
23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	31	2		1	家族会の際に必ずお伝えするようにしています。マニュアルや安全計画は事業所内にいつでも閲覧できるようにしています。マニュアルに加え緊急時や感染症拡大時にも状況に応じて支援ができるよう業務継続計画(BCP)も策定しております。マニュアルに沿って研修、訓練も行っています。	

非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	33			1	年間計画に基づき、年1回の消防立ち合い合同訓練（ご家族、地域の方の参加）と各月に自主訓練を行っています。様々な状況の設定で、どのような状況にも対応できるよう訓練を重ねています。また、事業継続計画を策定し、どのような状況でも、できる限り支援を継続していくことができるよう努めています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34				安全計画に基づく取り組みについて、家族会にて周知しております。今後も定期的に見直しを図りながら、お子様の安全を守り、よりよい支援が実施できるよう取り組んで参ります。取り組みの一環で実施しております、通報避難訓練や交通安全教室へご参加いただき感謝申し上げます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30		2	2	事故に至らずとも、擦り傷なども含め、速やかに保護者様に連絡をしご説明しております。医療機関の受診が必要な怪我等に対しても速やかに保護者様、協力機関及びかかりつけ医への連絡を行い、保護者様への迅速な連絡、また行政への報告を行う体制になっております。その後の経過についても随時確認させていただく体制になっております。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	31	3			お子様が安心して通所できるように、お子様1人ひとりの思いに耳を傾けながら環境を整え、落ち着いた雰囲気作りを行っております。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	28	5	1		たまへにイヤだ〜と言いますが…帰ってきたら「楽しかった」といいます。 今後より楽しみに通って頂けるよう、ご本人の思いを尊重し「やってみたい!」「チャレンジしてみたい!」と思えるような活動を計画します。達成感を感じ、自信に繋げていけるよう努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	2			いつもありがとうございます。 普段から活動へのご理解とご協力、ありがとうございます。身体的、精神的に大きく成長する学童期のお子様を丁寧にサポートできるよう、努めてまいります。ご本人のお気持ちを尊重しながら、ご家族や各関係機関との情報を共有し、よりよいサービスを提供してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人たんぽぽ会 こども生活館おひさま				公表日	令和8年2月20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定基準に沿い、定員とスペースは適切に運営を行っています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準を満たしております。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内はワンフロアになっており、バリアフリーの設定にしております。こどもの状況に応じて対応していません。こどもたちが心地よく過ごせる環境を整えるために前年度はトイレ、洗面所の改修を行い、さらに今年度は園庭の日よけテントを設置いたしました。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		状況に応じて清掃や消毒、換気に留意し、大きく身体を動かせる空間作りを行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別での活動やクールダウンできる場所を提供しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務改善を図るために、職員会議、事業企画会議等を定期的実施しています。職員会議は全職員が参加し、目標に向けての話し合いを行っています。目標に対して実際の分析と次への改善等の話し合いを行い、抽出された事柄について、法人で行う事業企画会議で管理者が提案しサービスの質の向上に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年一回ガイドラインに基づくアンケートを家族会などの行事の際に実施しています。保護者様のご意見を把握し、事業計画に反映させて頂き、改善に取り組んでいます。随時ご意見を頂けるようお願いしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内でミーティングを毎日行い、その都度意見を出し合い、業務改善につなげています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価の実施には至っていません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間計画に基づいて外部研修、法人内研修（月一回）、各事業所での研修を行っています。オンラインでの研修にも対応しており、研修の機会は増えております。また外部研修について随時復命研修を行っています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ガイドラインに沿って支援プログラムを作成し、ホームページに公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ご本人、保護者様からのニーズを把握し、アセスメント、カンファレンスを行い個々の今と将来を見据えた計画を作成しています。また、状況に応じて言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、公認心理士等からの情報も参考にしています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保育士、児童指導員等こどもの支援に関わる職員全員が、カンファレンスに参加し、こどもの最善の利益を考慮し計画を作成しています。		

14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画を職員間で共有し、年間活動計画や月間活動計画に反映し、計画に沿った支援を行っています。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化したツールを使用し、状況に応じて個々に合ったツールをさらに取り入れています。また、行動観察によって得た気づきを職員間で共有し、インフォーマルな視点からも、こどもの行動を捉えられるようにしています。	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援管理責任者や職員と共にガイドラインに沿ったねらいや支援内容を設定しています。5領域を踏まえたうえで具体的な支援内容を設定し、ご本人、ご家族の皆様に分かりやすく伝えることができるようにしています。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ガイドライン、年間事業計画を踏まえ、チームで立案し、集団活動の中でも個別支援計画の支援内容を実施するための工夫をしています。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		スモールステップを大切にしながらこどもたちの自信や達成感、安心感を得られるように活動を取り入れています。感覚的な活動、集団で行う活動、将来へ向けて職業体験など発達に合わせたプログラムを用意しています。見通しが持ちやすいような大きな流れは変えず、少しの変化で安心と期待をバランスよく保つことができるよう配慮しています。日頃の積み重ねを発揮する場としてオヒサマルシェやおひさま美術館などを開催し、変化を楽しみ、挑戦する力を育んでいます。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもたちの発達や年齢、状況に応じて個別活動、集団活動を組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し支援しています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		こどもたちの日頃の活動の様子、保護者様からの連絡や気づきを共有し、職員の動きを繋げながら、支援開始前に必ずミーティングを行っています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後、支援内容の振り返りやこどもの様子など、次へ繋げるために振り返りを行っています。また、保護者様との共通認識や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）にも繋げられるようにしています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ねらいや職員のアプローチに対するこどもたちの反応、どのように配慮があれば達成感を感じられることができるかなど、次の活動や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）に繋がる記録を心掛けています。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、保護者様や関係機関と連携を行い、必要に応じて放課後等デイサービス計画の適切な見直しを行っています。	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		ガイドラインに基づき放課後等デイサービス計画を立て、子どもたちが主体的に活動できるように基本活動を組み合わせています。活動を通して仲間との関わり、行事を通して地域の方々との関わり、創作活動、畑での活動など自然との関わりを通して情緒面の豊かさを広げ、子どもの自主性を尊重し、自由時間には自己選択し、様々な経験を積めるように取り組んでいます。また日常生活動作の確立もできるよう取り組みを行っています。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		様々な活動プログラムの中に、自己決定できる場面を取り入れ「自分で決めた」の経験がたくさんできるように支援しています。オヒサマルシェでは、仕入れや販売を通して身に付いた、自己決定する力を発揮する場所になっています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者や児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員が参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者様からの相談や困りごとの相談があった時や、日頃の子どもの様子などを共有するために、医療、学校、関係機関との連携を密に取り支援体制を整えています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校時間の確認は保護者様を通して行っています。連絡調整などはその都度確認し、双方向に適切に情報共有等を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		子どもたちが安心して利用を開始できるように、これまでの育ちを園や児童発達支援事業所等と情報共有を行いこれからの育ちや連携について等相互理解に努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		持っている力、今後も伸ばして欲しいこと、配慮が必要なことなど、必要なことを丁寧にお伝えし、移行時の環境が大きく変わる時にも、穏やかに過ごせるように連携を図っていきます。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターが主催する連絡会に参加し、研修会の取り組み状況、行政の情報、地域の情報等を取得し最新の情報を研鑽しています。今年度は実践報告や「脳の発達と心の成長」や「認知について」等、地域の事業所間でのグループワークに参加し、いろいろな見方について学びました。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		オヒサマルシェやおひさま美術館など地域開放型の行事を通して地域と交流ができるよう取り組んでおり、地域の方からも好評を博しております。「今後もおひさまの行事に参加したいのでお声がけください。」と、ご要望を頂いております。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		南部保健センターでの会議に積極的に参加し地域の民生委員、児童委員、幼稚園、保育園の先生方と連携を図っています。鹿児島市自立支援協議会の委員や子ども部会の委員として参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者の方と送迎の際にお会いした時や連絡帳、電話や面談などを通して日ごろのこども状況を共通理解ができるようにしています。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントプログラムを年に1クール（全6回）実施しています。自事業所のご家族だけでなく、地域の事業所のご家族・職員の参加もあります。講師として対応する職員は講師としてのフォローアップ研修に年2回参加し、技術の向上に努めています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や、内容の変更時にご説明しています。運営規程、支援プログラム、活動計画、利用者負担について事業所内にていつでも閲覧できるよう準備しています。職員もいつでも丁寧な説明が行うことができるようにしております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談、電話連絡での状況の共有を行い、確認する機会を設けています。また、子ども本人の意向確認も丁寧に行うことができるよう、個々でゆっくりお話できる時間を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者様に説明を行い同意を頂いたうえで、支援をしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時対応しています。面談や送迎時に日ごろの様子を伺い、悩みごとや困りごと等、スタッフ間でも共有し、助言を行っています。必要に応じて学校や関係機関との連携も図り、心穏やかに子育てができるようなサポートを心掛けています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度も『おひさまカフェ』『オヒサマルシェ』『おひさまゲームセンター』などを開催することができ、保護者様同士が、日頃感じていることなどを職員も交えて語り合う場を作っています。どの行事も、ごきょうだいの皆様も楽しむことができるように工夫しております。皆様に喜んで頂き次年度への励みにもなっています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情について相談苦情受付担当者・解決責任者・第三者委員等を任命し体制は整備してあります。保護者等へ周知し、資料を手渡し、閲覧用設置もしています。心情理解、事実確認、解決策の提示をし、迅速に対応していくことを心掛けて取り組みを行っています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月おたよりを発行しています。また個人情報に配慮したうえでSNSでも活動の様子を発信し子どもたちの様子を見て感じて頂けるように取り組んでいます。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		法人の個人情報保護規程を基に契約時や家族会の際にお伝えしています。個人情報の管理には十分に配慮しております。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		全員が分かりやすいような示し方を心掛けておりますが、状況に応じて個々に合わせて細やかな視覚支援などができるようにしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所主催の『おひさま美術館』や『オヒサマルシェ』は地域の皆様にも参加して頂いています。オヒサマルシェも5回目になり、「楽しみにしている」と好評も頂いています。また、避難訓練の際には近隣の皆様にも参加のお声がけをし、緊急時にはお互い協力を得られるような関係づくりを心掛けています。	
保護者への説明等						

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		家族会の際に必ずお伝えするようにしています。またマニュアル・安全計画・BCPは事業所内にていつでも閲覧できるようにしています。防災訓練や交通安全教室等にご家族（きょうだい）で参加して頂いています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間計画に基づき、年1回消防の立ち合い訓練と各月に自主訓練を行っています。様々な状況の設定でも対応できるよう訓練を重ねています。またマニュアルに加え緊急時や感染症拡大時にも状況に応じて支援ができるよう業務継続計画（BCP）も策定しております。どのような状況でも、できる限り支援を継続していくことができるよう努め、BCP（災害・感染）研修・訓練・見直し・改定を定期的実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に確認し、服薬、予防接種などはその都度保護者に確認しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの有無を利用開始時に確認し、アレルギーがある場合は指示書をもらい対応しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて研修、救命講習、訓練を行い、また外出時、プール活動時などチェック表を用いて安全に努め、安全計画について家族会にて周知しております。今後も定期的に見直しを図りながら、お子様の安全を守り、より良い支援が実施できるように取り組んで参ります。取り組みの一環で実施しております通報避難訓練や交通安全訓練へ今年度もご参加いただき感謝申し上げます。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組みについて、家族会にて周知しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度報告書を作成し、共有し検証することで再発の防止に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎月研修を実施しています。全職員で支援の在り方を共有し、適切な支援が行えるようにしてます。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束廃止、虐待防止、権利擁護は法人全体の研修を十分に行い、未然防止の共通認識を図っています。身体拘束に相当する行為は非代替性で生命に関わる場合など、緊急やむを得ない場合以外で行うことは想定していませんが、現在までに事例はありません。仮に拘束が必要と思われる場合は事前に保護者様に説明し、了解を得たうえで行うこととなります。現在は放課後等デイサービス計画への記載を必要とするお子様はいないため記載に至っていません。		